会　議　記　録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により，次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成２４年度　第１回屋島会議
開催日時	平成２４年６月２４日(日)　１３時３０分～１５時３０分
開催場所	高松市美術館　講堂
議　　題	(1) 会長・副会長の選任について (2) 基本方針の展開と活性化方策の方向性について (3) その他
公開の区分	■　公開　　□　一部公開　　□　非公開
上記理由	
出席委員	植田委員（会長），松村委員（副会長），池田委員，井上委員，小川委員，喜田委員，木太委員，竹内委員，新谷委員，林委員，藤岡委員，増渕委員，増田委員，蓑委員
オブザーバー	文化庁文化財部記念物課主任文化財調査官，四国森林管理局香川森林管理事務所長，国土交通省四国運輸局企画観光部観光地域振興課長，環境省中国四国地方環境事務所高松事務所長（代理），香川県環境森林部みどり保全課長，香川県商工労働部観光交流局観光振興課長（代理），香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課長（代理），四国旅客鉄道株式会社鉄道事業本部営業部長，高松琴平電気鉄道株式会社常務取締役，屋島山上観光協会会長
傍 聴 者	２人
担当課および連絡先	政策課 839－2135

協議経過および協議結果
次の議題を協議し，下記の結果となった。 議　事 (1)　会長・副会長の選任について 高松市の附属機関等の全庁的な見直しにより，平成２４年４月１日施行の屋島会議条例に基づき，改めて，委員の委嘱を行ったことに伴い，会長・副会長を選任したもの。 屋島会議条例第５条第１項の規定に基づき，委員の互選により，会長，副会長が選任された。 会長　植田和弘　　副会長　松村元起 (2)　基本方針の展開と活性化方策の方向性について （資料「第１回屋島会議協議用資料」および「参考資料」に基づき説明。） （事務局） （１ページ）

協議経過および協議結果
「1　屋島活性化基本構想（仮称）の構成」は，屋島会議として最終的に取りまとめていただく基本構想について，その構成案等を整理してお示ししているものである。 ４の，「基本構想（案）策定に向けて」のうち，基本方針までについて，これまでの会議における意見等を集約し，中間報告として取りまとめ，本年３月２２日に大西市長に提出したところである。 今後は，基本方針の下の部分について，皆様の御意見等をいただきながら，基本構想として取りまとめていくことを想定している。 「基本方針の展開」と，「活性化方策の方向性」は，屋島会議として取りまとめた屋島活性化のための基本方針をどのように展開していくか，具体化への道筋と，活性化のために取り組むべき具体的事業を構想に盛り込むに当たって，その方向性を整理するものであり，本日は，この部分を中心に御協議いただきたい。 ５の「基本構想（案）」は，屋島会議としての提言の核の部分であり，「基本的考え方」を明らかにした上で，屋島活性化に資する取組について「具体的事業」として示し，「構想の実現に向けて」は，最終報告書としての「あとがき」的な結びを想定している。この５の部分については，次回の会議で御協議いただく予定である。 なお，屋島会議は，10 月末から 11 月上旬にかけて，本年度３回目の会議を予定しており，そこで，改めて基本構想全体を御協議いただき，最終報告書として取りまとめることを想定している。 （２ページ） まず，「基本方針の展開」であるが，これは，屋島活性化基本構想（仮称）中間報告において取りまとめた屋島活性化の基本方針について，それを具体化していくための展開イメージを整理し，図に表したものである。 中間報告においてまとめられた課題，基本構想策定の留意事項，それらを踏まえた，基本方針を系統立てて記載している。 その下が，基本方針を屋島活性化に向けて，どのように展開していくかという部分であるが，中間報告以降，これからの議論の流れでもある。 基本方針の，アからカまでの６つの項目について，それぞれ活性化方策の方向性を整理し，その方向性に沿った具体的施策・事業を，屋島会議や，７月 14 日に開催する「屋島活性化シンポジウム」での意見等も反映させた上で，屋島活性化基本構想として取りまとめ，それぞれの実施主体において，各施策・事業に取り組んでいくことを表現している。 （３ページ） 次に，「活性化方策の方向性」として，これまでの屋島会議での議論や，委員からの意見，さらには，市民や利用者等への調査で得られた意見等を踏まえて，基本方針の，アからカの項目ごとに，それぞれ「活性化方策の方向性」を示すものである。資料の構成としては，基本方針の項目，その下に基本方針に基づく「活性化方策の方向性」の整理案であり，本日の会議では，この部分を御議論願いたい。 その下に，事務局において，これまでの議論や意見等での「活性化方策の方向性」に沿った施策・事業の具体例を，議論の参考のためにお示ししており，この部分は次回の会議で御議論いただく予定である。

協議経過および協議結果
参考までに，次回，この施策・事業についての協議をどのように進めるかについて，若干，説明させていただくと，今回，協議用資料３ページ以下に例示しているもののほか，活性化に資すると考えられる施策・事業を表形式に整理した上で，これらについて，屋島会議が提案する施策・事業として御協議いただく予定としている。 従いまして，今回，ここに記載している施策・事業は，あくまで，方向性を議論するための，参考としての例示であり，これら事業を実施することが，既に確約されているものではないことを，あらかじめ御承知おきいただきたい。 まず,「基本方針　ア　貴重な自然環境や文化財の継続的・体系的調査研究と保全」では，屋島が有する資源，価値を保全し，活用するとの観点から，価値の根源でもある自然環境のほか，史跡や民俗，また，名勝的景観について，それぞれの保存・活用のほか，体系的な調査・研究や，その情報の蓄積と発信などの活性化方策の方向性を６項目示している。 ここでは，方向性②の，遺跡については，屋嶋城跡だけでなく，具体的施策・事業の例示のｃのとおり，北嶺の千間堂跡なども，屋島の歴史的価値をさらに明確にする上で，調査・研究，保全・活用が望まれるものと思われることから，記載したものである。 また，方向性③の，名勝的価値への着目は，具体的施策・事業の例示のｇの，国の指定に向けた取組を想定しているものである。 なお，それぞれ施策・事業の後に，短期事業と記してあるものは，次のページ以降も同様で，概ね３年以内に実施が可能と考えられるものである。 （４ページ） 「基本方針　イ　歴史・文化・信仰に富む屋島の再発見と活用」については，屋島の古くから受け継がれてきている特性や魅力を再発見し，屋島にふさわしい活用策を展開するという考え方から，魅力等の再発見を目的とした，情報発信やイベントの開催のほか，地域資源としての活用など，６つの方向性を挙げている。 なお，具体的施策・事業の想定としては，ａ，ｂの，情報発信ツールの整備のほか，市民に屋島の魅力を再発見してもらうためのイベント開催などが考えられる。 （５ページ） 「基本方針　ウ　知的欲求を満たす「文化観光」の創造」については，文字どおり，観光面での展開の方向性である。 アやイの方針に基づく展開だけでなく，屋島が「文化観光」の核として，更に輝くものとなるよう，新たな価値を創造するとともに魅力を創出するため，ソフト・ハード両面で，７つの方向性を掲げている。 また，特性や価値のＰＲだけでなく，方向性②，③の来訪者の受け皿としての施設等整備のほか，課題とされた，⑤の更地の有効活用や，⑥のアクセス環境の向上，⑦の廃止後そのままとなっているケーブル施設等の利活用も方策展開に向けた方向性として挙げている。 これらの具体的施策・事業の例示は御覧のとおりであるが，特に，ｄ，ｇ，ｈなどのハード整備の面は，用地確保等種々の課題克服や，法的制約との調整といった条件クリアが必要であり，中・長期の取組となるものと考えている。

協議経過および協議結果
（６ページ） 「基本方針　エ　都市（まち）づくりと連動した景観の保全と再生」については，多島海や市街地を屋島山上から眺望するだけでなく，国立公園や天然記念物の指定要件ともなっている屋島の山容（メサ地形）や豊な緑を，瀬戸内海や市街地から望むことができるよう，魅力あるまちづくりを推進し，美しい景観の保全と再生を図るという考え方から，良好な景観の発掘や確保など，４つの方向性を挙げている。 特に，屋島来訪者に感動を与えるためには，方向性①のとおり，展望台を含む，良好な眺望ポイントの発掘や確保が必要と考えており，具体的施策・事業の例示として，ａのとおり，山上における景観ポイントの整備とともに，ｄの，ビューポイント案内板の設置を掲げている。 また，方向性④の近傍公共的施設の活用については，施策・事業の例示のｅのとおり，屋島地域の公共的な施設においても，屋島全景や眺望などのほか，ビューポイント等の紹介などの掲示により，利用者に対し，間接的に屋島全体の景観の魅力を訴え，屋島への愛着を醸成しようとするものである。 次に，「基本方針　オ　屋島の有する特性・価値の次世代への継承」については，古くから受け継がれてきている屋島の特性や価値を，高松市の貴重な地域資源として次世代へ継承，発展させていくことの大切さを市民全体で共有するという考え方から，４つの方向性を挙げている。 方向性の視点としては，子どもたちが屋島に接する機会づくりや情報の提供，家族で楽しめる環境づくりなどによる，子どもたちの屋島への愛着心の醸成を主眼としている。 （７ページ） 「基本方針　カ　実効性のある推進体制の整備・構築」については，この構想で取りまとめる多面的な活性化方策を，着実に推進し，実効性のあるものとするため，関係機関等の有機的な連携によるネットワークを構築することのほか，進行管理を含む実質的な推進体制を確立することなど，３つの方向性を挙げている。 なお，施策・事業の例示のａの推進組織であるが，事務局としては，屋島活性化基本構想がまとまり次第，この屋島会議のオブザーバーの方々を中心として，推進組織に移行していただくことを想定している。 協議資料の説明は以上であるが，参考資料について簡単に御説明する。 この資料は，昨年 11 月に行った「屋島についての市民意識調査」に続き，今年４月 20 日から５月７日までの間，高松市内に事業所を持つ広告代理店・旅行代理店・高松ホテル旅館料理協同組合に加盟する店舗等 37 事業者を選定し，屋島会議の中間報告書と調査用紙を郵送しての事業者意識調査を実施した。 回収結果は 10 事業所で，回収率といたしましては，残念ながら 27%である。 ただ，回答いただいた事業所からは，建設的な御意見等をいただいている。 資料の１・２ページは，調査票の様式であり，中間報告での基本方針に対する御意見のほか，課題等への解決方策・活性化のアイデアなどについて，記述式でお答えいただくこととしたものである。 ３ページ以降に，それぞれの質問に対する御意見等を記載しているが，時間的な都合で，内容説明は省略させていただくが，ここに記載された意見も，次回提案さ

協議経過および協議結果
せていただく具体的施策・事業に反映させたいと考えている。 以上で，議題２の「基本方針の展開および活性化方策の方向性について」の説明を終わらせていただく。御協議のほど，よろしくお願いしたい。 （会長） いろいろな角度から，いろいろ論点はあるかと思いますが，どこからでもいいので御意見を伺っていきたい。 （委員） 子どもが楽しめることが必要である。高松市内の小学生，４，５年生ぐらいになったら是非とも遠足で登ってもらいたい。小学校の社会科では源平の戦いも教えているし，せめて高松市内の小学生は必ず行くようすべきである。県の校長会で要望してはどうか。 また，意識調査結果には，屋島へ上がる料金を 610 円から 300 円にしてほしいとの意見も書かれており，５月や 10 月の気候も良い時期の１カ月，２カ月の間は料金を安くしてもらってはどうか。 （委員） 活性化方策の方向性について話し合うのが今回の会議の目的とのことであるが，項目が多いという感が否めない。参考資料の意見の中にも，最優先方針を一つか二つくらいに絞って具体的な方向を決めてという意見が強いように思う。段階を追って行くので仕方がないとは思うが，今，何が出来るのか，何が最優先で，何をやらないといけないのか，全部一緒には出来ないならば最優先事項となることを今回の会議で進めていかないと，一般的な議論，抽象的な内容にいつも終わってしまうと思うと前回思った。議論の流れ上，仕方がないと思うが，具体的な方向性を打ち出していけたらいいのではないか。 （委員） 地元の代表としては先の委員が言われたことに同感です。屋島住民の屋島会議への期待は大きく，具体的にどこがどのように変わるのかとよく聞かれる。 私は，屋島ケーブルの跡地利用ということを当初から言っている。屋島全体が高松市を代表するシンボルとのことであるが，伝統ある屋島において，屋島ケーブルが廃止されて約８年が経ちますが，放置された状態です。これは屋島が活性化されない大きな原因の一つだと思う。屋島の真ん中でケーブル跡地が寂れているままでは，住民として，屋島が良くなったとは感じられない。とりあえずは，あそこを登山道として活用できるようにお願いしたい。 （委員） 何を優先するか，何が大切かということを何点か絞って進めてもらいたい。 もう一点は，他の委員からも話が出たが，学校教育の場で子どもたちにもう少し屋島を勉強してほしいということである。県外の人にとっても，屋島と言えば源平の古戦場ということで有名であり，山上に源平合戦に係わる常設展示場を設置してもらえたらと思う。 もう一点は，屋島から見る高松の夜景はすばらしく，交通のアクセス，通行料のことを何とかして，夜にでも若者などが足を運べるようにしてほしい。

協議経過および協議結果
（委員） 具体性のあることに絞って話を進めてはどうかという意見に私も同感である。事務局からは，次回に内容を絞ったものを出せるように進めているという説明であったので，一応は納得している。 前回キャッチフレーズをどうするかという話が出ていたので，現在，各地で世界遺産登録を目指した活動が行われており，屋島もそういったところに見劣りすることはなく，希望も含めて，「瀬戸に浮かぶ浮島　屋島台地を世界遺産に」というキャッチフレーズを提案させていただいた。屋島会議とは少し離れるかもしれませんが，世界遺産を目指すという大きな目標を持ってもいいのではないかということで提案させてもらっている。 （委員） 先週，会議があって，その中で屋島会議についても話題になった。出席者からの意見の中で，「香川県の宝，高松市の宝という割には，市民への認知感が非常に低い」ということにカルチャーショックを受けたということがあり，小学校の高学年の児童に遠足に行ってもらいたいということであるが，低学年や保育所・幼稚園でもよいと思うので，遠足・校外学習など様々な切り口で，屋島山上で様々なことを行う必要があるのではないかと思う。そのようなことは教育委員会の責任という意見も出ていた。 それから，歴史・文化・景観も重要だが，楽しさがないと人は集まらないという項目があるが，全国的にも，国立公園ということだけでは人集め，観光は出来ていない状況であり，少子高齢化社会に向けて，過去のような観光，インバウンド対策では人が集まって来るはずがない。では今後，どのように対応していくべきかというと，高齢者が増えるということに対応した企画，子どもが減少した場合での企画などと，何段階かに分けた企画を具体的に作成して，それに対応出来るものを作っていく。それから，具体的に人が集まって来る施設を作ることが重要ということも話題になった。屋島の上へ行かなければそれがない，屋島の上へ行かなければそれが見えない，楽しめないものを考えると，屋島の山上で大きなミュージックアトラクションをやるとか，金比羅宮のように階段マラソン大会をやるとか，いろいろと考えられるが，それが一度や二度開催されても，継続していくことができないことに，高松市の弱さがある。継続していくためには，行政だけではなく経財界等とコラボしてほしい。経財界が本腰になってやれるものを連携して作っていかないと，絵に描いた餅で今回の会議も終わるのではないかと危惧している。 （委員） 基本方針のカの実効性のある推進体制の整備・構築のところで，これまでやってきたこと，お金をかけてきたこともこの中に多々入っている。そういった中で反省をしながら振り返ってみて，なぜそれがうまくいかなかったのかということを考えると，やはり，いろんな分野の人が，いろんな思いを持って様々なことを展開してきたが，どうしても点でしかなく，それを結び付けてマネジメントして，屋島の魅力として発信するということが上手くやっていけなかった。役所の中でも縦割りの中で，それぞれの部署が屋島の中でいろんなことを検討してきたが，屋島という一つのキーワードの下で全庁的に展開することもなかなか出来てこなかったというこ

とが大きいのではないかと思っている。

カの活性化方策の方向性の中に，官民協働の連絡協議会的なものを，しっかり作っていただいて，現場でいろんなことを展開する人も入ってもらって，隣の人がどういったことを展開しているのかということを皆さんが共有して，情報の伝達を一元化してほしい。それぞれがばらばらにいろんなことにお金をかけてやるのも有効ではあるが，どうしても発信力が弱くなる。今回この屋島会議で決まったことを継続的にやっていくためには，情報発信の一元的な発信や，事業の一元管理やマネジメントをする人材が不可欠であると思う。是非，この方向性の中に，単に見守るだけの推進体制を作るのではなくて，実効性のある，強固な推進体制を作っていただきたい。

もう一つ，この方向性の中に盛り込んでもらいたいのは，屋島の魅力を核にした屋島の再生は，周辺地域との連携が不可欠であるということである。歴史や自然や文化等も含めて，周辺には，イサム・ノグチ庭園美術館や八栗の五剣山など，非常に有益な資源があり，屋島を再生するには，この一帯を高松市の観光交流地域として育てていくことが不可欠であると言われており，この 10 年余りそのような体制の中で運営してきている。広域連携的な体制を作り，その中で屋島がトップリーダーとしてその地域全体を引っ張っていけるような推進体制の構築ということも，是非，考えていただきたい。

基本方針のア・イは屋島の魅力を整理するということ，ウはハードの課題の整理をするということ，エ・オは活用方法であると思うが，エ・オを二つに分ける必要があるのかと思う。その辺りも検討していただきたい。

（委員）

これまでの会議では，これまでのありきたりの観光ではなく，新しい観光を考えていかないと，屋島を再生し魅力を生み出していくことは出来ないということが議論されてきたと思う。今回は基本方針があって，どう具体的なアクションを起こすのかということで，展開・事業例で書かれていると思うが，これだけ見ていると，わくわくしない感じになってしまっていて，網羅的に書きすぎていて，何からやるのかという優先順位が見えない。マニフェストなんかもそうですが，出来ればいいよねということを書いても，会社の経営を考えると，優先順位と実行できることが決まってきて，高松市も予算の中でやっていくので，この中の全てをやるということではないと思うので，この部分が特に大切だということが分かる表現方法を考えてはどうかと思う。

特に，具体的施策から見ていくと，基本方針ウのｍに瀬戸内国際芸術祭関連イベントの開催とありますが，これに関連する上位概念というか，方向性がどれに当たるのかよくわからない。ぴったりするものがないように思う。現代美術を絡ませて屋島の新しい魅力を興していく方向性があってもいいかと思う。

（委員）

中間報告を受けてどのようなアクションを起こしていくのかということがこれから大切になると思うが，子育てをしている母親としては，屋島というのはある種特別な所で，わざわざ遠足で行く所，学習に行く所というイメージが強く残っている。屋島地区でも子ども会の充実を図ろうという動きが保護者の間でも出てきており，

協議経過および協議結果
学習も大切であるが，子どもたちが日常的に屋島に遊びに行けるというイメージづくりとか，そういうアクセスを作るとか，そういうことによって，子どもたちの意識の中に定着させていくことができるのではないかと思う。特別な場所という意識が子どもたちの中にもあると思うので，そういうことを市民や行政のバックアップによって日常的な場所にするということも必要かと思う。 それと，屋島が元来持っている景観等の魅力だけに頼っていたのではだめだと考えている。元来の魅力と両立する活性化の施策も必要かと思うが，四季折々であったり，定期的であったり，継続的にイベントを投入する必要があると思う。屋島があるから人が集まるということもあるが，イベントなど，屋島に行ってみようというきっかけづくりの具体策を行うことも必要だと思う。そういうふうに，見える範囲での方向性を確実に作り込んでいったらいいと思う。 （委員） 香川大学の工学部のみならず，理科系の研究者が，個々に調査したり研究したりということはあったが，総合的にお互いが連携してやっていくということはなかった。今回，基本方針アのように，自然環境の調査をもう一度やらないかという話があり，私が責任者で，地質・地形の専門家の長谷川教授に実質的なリーダーになってもらって，この間，会議を開いて，地形・地質・生物・気象の研究者で，今年度と来年度で調査を実施するということで話を進めている。 また，長谷川教授が中心となり，讃岐をジオパークに登録する会というのもやっていて，世界遺産とはちょっと違うが，地形・地質の貴重なものを世界で残していこうというもので，それは単に自然条件としての地形・地質ではない。四国では，室戸が選定されたが，そこでの人々の生活全てが調査される。外国から来た委員が地形を見るのではなく，まず人々の家に入っていったり，レストランに入ったりして，そこで人々が自分の郷土をどう思っているか，その地域の環境を地域の人々がどのように見て，来訪者にどのように紹介し，どう理解してもらおうとしているかという活動自体を登録していくのがジオパーク運動である。讃岐ジオパークであるので，屋島だけではなく，五色台や五剣山も含めてである。 最近，地震が多く研究が進んでいるが，屋島の出来方についても新しい学説が出てきており，サヌカイトも珍しい石であるが，四国讃岐のサヌカイトと，日本では千葉県から九州までサヌカイト類というのが出ているらしいが，それらは厳密に分析すると違うもので，生成年代も違っているとのことである。そのようなことも含めて，屋島の自然環境，歴史的，文化的価値を紹介するビジターセンターのような施設を山上に作ることができたらと思う。あるいは我々も，観察会や見学会ということをもう少し組織的に定期的に行い，屋島の魅力を広く知ってもらうお手伝いができるかと思う。 皆さんの言われる優先順位については，私もそう思いまして，短期計画というのがたくさんあり，短期計画の中でも優先順位を付けてやっていくといいかと思う。 （委員） 中間報告でまとめられたことを前提条件としてこれを見ると，いろいろと意見は出ているが，この原案はそれなりに理解できる。地元の方の意見には，依然として屋島の上に施設を，ということがあるが，基本的に，屋島そのものに固定的なもの

を作って人を集めるのか，それとも，屋島というものは，あくまでも高松市全体の中で機能していくもので，屋島そのものですべての勝負をかけるのかというところでは，私は従来型ではなく，新しい発想で取り組むべきではないかと思う。施設が必要とすれば，何が必要な施設なのかという観点から議論をしなければならないと思う。

優先順位の話が先ほどから出ていて，他の委員から意見があったが，私も同じことを考えており，これを見ていくと，短期事業と書かれているものの中には既に進行中のものが幾つか入っている。そう考えると，何年度までとか，具体的に書けないから，このような書き方になっていると思うが，それなりに優先順位は読めるようになっていると思う。他の委員の方の意見は，これをもう少し，現在進行形とか，一，二年のうちに着手する場合は短期とか明確にした方が，より説得力があるという意見ではないかと思う。

私は過去にも仕事で屋島の問題に係わったことがあるが，以前に議論された計画と比べると，今回は具体的施策や事業の例示として明示されたものは多いと思う。しかも今回は，地元香川大学との官学協働の動きもこの中に位置付けられてきている。そういう点からかなり具体化されたものになっていると思う。

それからもう一つ大切なことは，これも幾人かの委員から意見があったが，周辺地域との連携である。周辺地域との連携の中で屋島を位置付けていくという発想は，この屋島会議の発想として大切にしていかなければならない。

（委員）

具体的な問題として重要なことは，環境整備のことで，無理難題があって皆さん口を閉ざしていると思うが，上に行ったときに，ホテル跡とか，ケーブル跡とか，あのようなものがあることは，活用する上でも非常に難しい。きれいにしてから問題提起をしていかなければならないのではないかと思う。

それと，屋島という存在感をどうしたら地元の人に浸透させられるか。地元の人は，屋島のことは何でも知っていると思っていても，実際は全然知らないと思う。それをまずは子どもたちに，まんがでもいいので，屋島の歴史とか，おとぎ話とかいろいろなことを教育して，それから遠足で一年に一度は必ず屋島に登る。

それと，私の専門が中国なので中国の話をしますが，中国では健康に対して強い意識がある。早朝からラジオ体操をして近くの山に登るということをしている。これから屋島を，そういう健康の場として地元の人に使っていただくことによって，今から外に宣伝するとかではなく，まず地元の人が屋島をいかに大事にしていくかということが問題ではないかと思うので，子どもたちが頻繁に山の上に登ってピクニックをしたりするのもいいと思う。先ほど委員の意見にもあったが，点はたくさんあるが面の部分がない。どうしたら屋島が地元の人にとって身近な誇れるものになるのか，それを地元や学校でやってほしい。

出来ることについては，もう時間がありません。何度も出ている瀬戸内国際芸術祭はもう来年であり，これが具体的にはどうなっているのか知りたい。ジャズフェスティバルや音楽祭，フードフェスティバルなどいろいろあると思うが，一過性に終わらないで毎年やることが大切だと思うので，この屋島会議も一過性に終わらず，毎年，何かイベントができるようなものになってほしい。

協議経過および協議結果
（副会長） 十日ほど前に韓国に行ってきて，コンベンションとして屋島の宣伝をしてきた。一つ考えられることは，昔，屋島・栗林公園・金比羅というのが修学旅行のコースであった。現在では，栗林公園・金比羅となって，屋島は忘れられてしまった。屋島を愛する人々を多く持たなければならないと思う。 韓国でもこれは島ではなくて陸続きではないのかと言われましたが，あそこに相引川があって一つの島であるという話，それから北嶺からの多島美の話もしてきた。一番欠けていることは，皆さんに知らしめるということで，早速，屋島の宣伝ポスター・屋島のパンフレットを作って，皆さんに知らしめるということが早いのではないか。その中で，文化観光と景観観光の両方をミックスして，ここに出てきた意見をまとめて。ポスターやパンフレットを作るということは，早速出来ることなので，昔のように屋島のポスターが出ていないということを残念に思う。 栗林公園・屋島・玉藻城，三つの結び付きで，高松市全体が愛しているのだということを，グローバル化の社会になってきており，また少子化の社会になってきているので，外に向かって発信できなければいけないと思います。私が中国に行った時に向こうの方に言われたのは，何か一つポイントを絞っていらっしゃいと，徳島は阿波踊り，愛媛は道後温泉，高知はよさこいがあるということで，やはり瀬戸内海の美が忘れられているのではないかということであったが，芸術祭のある直島はものすごくよく知られている。直島の次に出てきているのが豊島，男木島・女木島，ここへ行きたいという旅行者の意見もあった。それから，屋島の山上に古戦場としての資料館をおいて，玉藻公園でも作ったような，ああいう意識で，知らしめる屋島というのを作っていくべきではないかと。 （オブザーバー） 午前中は資料館で，昭和の戦前の絵はがきを拝見してきたが，同じようなアングルで撮影した景色がこんなふうに変わっているのかということが分かるようにまとめてもらうようお願いした。具体的な話は次回ということで，そのような資料がなければ議論も出来ないのではないかということで資料の作成をお願いしている。 私は，屋島で年間を通してどのようなことが行われているのかというカレンダーを作るとよいと思う。再三，意見の出ているパンフレットやマップも早急に作るべきものと思う。先ほど，絵はがきの話をしたが，「金比羅参詣名所図会」というもののコピーをここに持っているが，カジスイという所がありまして，これを持って現地へ行ったところ，良く似た景色がありました。この絵図は江戸時代のもので，多くの人が屋島寺に参詣するときに手を合わせたものが，そっくり今も残っている。そういう情報をパンフレットのようなもので提供すれば，昔の人がああいった道を歩いたのだと，感銘を持って，景色を見てくれるのではないかと思う。調査研究が始まったばかりなので大いに期待したい。 （オブザーバー） 屋島は国有林が大半を占めている。屋島の森林の扱いは共生林ということで，人と共に共生していくという扱いの森林になっているので，関係する事案がありましたら検討させていただきながら，国有林の活用をしていただきたい。 （オブザーバー）

協議経過および協議結果
皆さんのお話を聞くと，活性化としてある程度人が訪れることを考えており，歴史とか文化とか屋島の特徴を生かしていこうということだと思うが，地域との連携なり，周辺の行事との連携ということがあるが，この中で人については余り話が出ていなかった。 そこに行った時に，ボランティアガイドなどだれでもいいので，来た人に対して屋島の魅力を発信する人がいないといけない。登れば景観は素晴らしいが，その魅力をだれが伝えるのかという話が全然ないが，そこが，一番大切ではないかと思う。外国人でも子どもでも，来てもらってもああよかったねと，１回で終わらないように，屋島の歴史や魅力など，情報を発信する人がいなければ，次にはつながらない。人がいないと，景色だけでは，今，観光は成り立たない。初めて見れば感動する景色も，何度も見ればだんだん魅力もなくなってくるので，そこへ行ったときに，屋島にはどのような魅力があるかということを来訪者に伝える人がいて，それを聞いた人がさらに口伝えできるような，そういう人を育てていくことが一番大事である。 (オブザーバー) 屋島は，国立公園に指定しており，北嶺は環境省の所管地ですから，環境省が中心になって事業を進めていくことになるが，今ごろになってと言われるかもしれないが，屋島の活性化の，活性というのは，具体的にどの辺を目標としているのかよくわからない。確かに昔に比べて人は減っているが，人が減ったから活性化しなければいけないのか。観光というのは経済によっても左右され，いろいろ新しい観光地が出来ていくということもある中で，そもそもどこを目標にしていくのか。昔は人が来ていたから昔に戻すのか。瀬戸大橋が出来たりして，地域としては，観光客は増えているが，本来，屋島の観光というのはどの程度の水準だったのか。地元にアンケートをとられていますが，外の人へのアンケートがないので，外の人が屋島をどう見ているのかということが分からないまま話が進んでいる気がする。 (オブザーバー) 屋島活性化のイメージをこの場でしっかり合わせるということが必要と思う。山上で旅館・土産物屋を営んでいる方，住んでいる方が屋島の活性化をどのようなものと思っているのか。そこのすり合わせをしないと，今後，具体的な事業を進めていく過程でズレが生じることもあるのではないか。 屋島の活性化ということで先ほどから話が出ているのが，屋島の周辺地域も含めて考えなければいけないということで，周辺地域を含めた場合は，決して悲観的な状況ではないと私は思っている。例えば，山麓ですが，四国村はとてもいい施設であり，庵治・牟礼の方へ行けばイサム・ノグチの庭園美術館など新たな脚光を浴びている施設もある。 屋島の活性化とはどういうことなのか。山の上に来る人が 50 万人であるのを 100 万人にすることが活性化なのか。麓も含めて 50 万人を 100 万人にするのか。そういうイメージのすり合わせについてもう少し議論をしてもいいのではないかと思う。 情報提供について言えば，山上に来る人が 30 分過ごすのか，１時間過ごすのか，２時間過ごすのか，そういった用途に応じた情報提供は必要であると思う。例えば，北嶺がいいと聞いて行ってみようと思っても，歩き出した途端に，これは自分の持っている１時間では無理だということになるので，ニーズに合った情報提供を細か

く行うことは大切だと思う。

(オブザーバー)

屋島そのもので勝負をするのか，屋島を観光地として，昔のようにするのか，地元の資源として，地域の方がどう考えているのかということに全てがあるのではないか。具体的な方策をこれだけ挙げているが，全てをすることは無理なことなので，優先順位を付けるところで，地元の方が屋島をどうしたいのかというところを議論した上で進めていく必要があるかと思う。

(オブザーバー)

先のオブザーバーの方の話にもあったが，屋島の名勝的な価値など，景観・風景を含めた調査を市の教育委員会がやろうとしているので，協力をしていきたいということで進めている。

私どもは，屋島についていろいろと調べているのですけれども，実際に歩くと新たな発見があり，調べてみるとそれが昔は知られていたけれど今は知られていないという再発見であったりとかということもある。土日に屋島に登ると，結構たくさんの人が来ており，そういったことをできるだけ早く，パンフレットやマップに反映させていけるようなことを，たちまち目の前のこととして進めていけばよいのではないかと思う。更に継続的に，調査研究をすることで新たな価値が明確になっていくことになるかと思うので，そこに期待したい。

(オブザーバー)

今回のような議論を含めて，これから施設等の整備などをされていくのだと思うが，整備をした後が一番大切で，整備が目的ではなくて，整備した後，それをどう使っていくかが重要になってくると思う。

そのためには，推進体制などの人の問題だと思う。官民それぞれの役割分担があり，形式的な組織のみではなく，地元のフォーマルでない組織とも連携しながら進めていけば，おのずから情報発信出来てくる。

(オブザーバー)

琴電は屋島山麓に駅を持っている。高松市の補助をもらい，そこからＪＲ屋島駅と屋島山上を結ぶシャトルバスを運行している。会議の中で何回かアクセスの問題が議論されており，課題の中に入っているが，今後，屋島の魅力が高まり，来訪者が増えたときに，山上へのアクセスについて，公共の交通機関を御利用いただくのか，自家用車での登頂を中心として考えるのか，私どもとしては，まだ把握できていない状況である。

現在，高松市から補助をもらっているシャトルバスは，残念ながら利用率が非常に低く，市の補助をもらっても赤字であり，琴電グループでその穴を埋めているというのが実情であり，100 円の料金と，電車についても IruCa カードを使うと割引があるというサービスを行っているが，なかなか利用してもらえないというのが実情である。私どもからこのように言うのは僭越であるが，もう少し公共交通機関に目を向けてもらいたいというのが一つである。

それから，夜間について先ほどお話しが出ましたが，屋島ドライブウエイは，夜 10 時まで営業しており，夜景を見たいという方のニーズには十分こたえていると考えている。また，シャトルバスについても，夏の間は週末の日没後，平日は利用者

が少ないのでやっていないが，週末は遅くまで臨時便を出している。この辺りも御理解願いたい。

今後，屋島のアクセスをどうするかということは，私どもの経営問題としても重要なことと考えており，日ごろから努力を続けているところであるが，公共交通機関と言えどもコストは掛かり，自然環境も含めた，高松市の全体の政策の方向の中で，どういった交通機関を利用し，屋島を魅力あるものにしていくのか，これも少し考えてもらえるとありがたい。

（オブザーバー）

地元としても意見をはっきり言わないといけないが，現在，屋島山上の住民というか，営業している旅館や土産物屋は五，六軒しかない。元々，旅館だけでも七，八軒あった。屋島が本当によい時代というのもあったが，現在，屋島山上の人々の力というのは，ほとんどゼロである。ですから，皆様方の意見を聞かせていただきながら，その結果を待っているのが今の状態である。私個人の意見としては，今までの屋島をどうするかという話ではなくて，これからの新しい屋島を何か考えていただきたい。

これまで山上には公共施設がないが，これは土地の八，九割の所有が屋島寺様だからであり，これが一番大きな問題である。この話を一番に持ち出して皆様に意見を聞いても，いい意見はなかなか出てこないのではないかと思う。現在，廃屋が次々ときれいに更地になっているが，これらの土地もほとんど屋島寺様の所有であり，これを上手に利用させてもらう方法，そこに屋島会議として，市長さんを始めとした市の意見として，立派な施設を作ってもらえると，我々屋島の住人も，山の人間としては商売を抜きにしては考えられないが，商売を中心とした公共施設ではなくて，どこから来てもそこで 30 分から 1 時間程度，十分時間がとれるような公共施設を作ってもらいたいと私は考えている。長谷川先生にジオパークの話も聞いたが，これも非常に良い話と思う。進めてもらえれば助かるし，皆様すばらしい意見をたくさん出されているが，この結果がどうなるか期待している。

それから，意識調査の回収率があまりにも悪いが，同じ方にでも結構ですから，もう一度調査をし直してはどうか。残りの 6 割 7 割の方の意見が聞けたらもっと良いのではないかと思う。

（会長）

たくさんの御意見がありましたが、他の委員，オブザーバーの方の御意見を聞かれて、もう一度発言しておきたいと言う方がいらっしゃいましたらどうぞ。

（委員）

人というお話がありました。屋島には有能な，屋島のことを一所懸命考えている人材がたくさんあります。そういう人を掘り出して，連携してボランティアガイドに。この間，世界遺産の熊野に行きましたら，バスが着いたらすぐに語り部ガイドさんが二，三人駆けつけてきてガイドをしてくださった。屋島もどうぞ見てくださいというだけでは良くないと思うので，ガイドの養成は，是非，お願いしたいと思います。

（委員）

山上にビジターセンターのようなものはありますか。

協議経過および協議結果
（委員） ボランティアガイド協会が，土日に時間を限定して活動しておりますが，ビジターセンターのような，観光情報を発信する場所はない。 （委員） そういうものも必要ではないかと思いますし，それからレンジャーやナビゲーター，何かキャラクターを作って，特別な衣装とかで高松駅などに必ずいるようにするというのも一つの手ではないかと思います。 （委員） 山上には，ボランティアガイドさんが組織立って，週末を中心に活動されていますが，そういう方が観光案内所で業務提携もされています。それから公的なグループではありませんが，自然観察や歴史やいろんなジャンルに分かれて民間のＮＰＯや市民グループが屋島で様々な活動をされています。 そういう方が，四季折々に，連携して，いろんな形でイベントを開催して，市民を対象にしてワークショップをやったりとか，自然観察会をやったりとか，歴史の勉強会をやったりとかというようなことはされている。 そういう人材はいないのではなくて，実際はけっこういて，様々な活動を屋島の中で展開しています。ただ，表に出るような，クローズアップされるような組織立てにはなっていないということです。 （委員） 屋島おもてなし実行委員会というのを組織立てていただいて，お茶の接待とか，ボランティアガイドの養成とかやっていただけたらいいと思います。 （委員） バードウオッチングとかやっているのですか。 （委員） 野鳥の会さんが中心になって結構やられていますし，三，四年前にまとめられた屋島の活性化の計画の中にも書かれていますし，貴重な生息動物もいるらしいので，そういうものを観察したり紹介するような，正にビジターセンターですね，そういうものを欲しいということで，当時，環境省の方ともいろいろ意見交換をしたりもしました。 （会長） 皆さんよろしいでしょうか。次回もこの議論を継続するので，今回は一応活性化方策の方向性を取りまとめていくということで議論させていただきました。多様な御意見をいただきましたので，私なりの感想を申しあげます。 まず基本にあることは，屋島の価値や魅力の再発見や新しい発見，それを進めるということ。それに関して私なりに理解したことは，屋島だけを見て言うのか，周辺地域等も含めて言うのかということを含めて，連携しながら相乗効果で，屋島の魅力を上げるような，価値の発見のように考えるというのも非常に重要なことかと考えました。 これが一つで，それと同時に，価値や魅力の再発見の問題は認知の問題で，この認知の問題で，特に皆さんが強調されたのが，地元高松市，それから次世代に認知してもらうということが大変重要なので意識的に取り組んだほうがよいとのこと

協議経過および協議結果
で，遠足を義務付けるというお話のように聞きましたが，そういうことで良かったでしょうか。そういうことも含めて，何らかの形で認知が進むように，学習の機会を設けるということだと思うのですね。それを意識的に，系統的に進めるということをやらないといけないのではないかと思います。 それからもう一点，すごく強調されたように思ったのですが，屋島の価値・魅力と関係しますけども，どういう場としてデザインするか。場としてのデザインというのは，もちろん歴史・文化・景観という一番重要と思われることもあるのですが，人がどう活動しているかとか，人がどういう感心を持つかということとの関係でどうデザインするかという問題を，何人かの方がおっしゃったように思います。魅力を感じてもらうには，ボランティアガイドとか語り部とか，単に見るだけでなく，こんな人の説明を聞いたという，その人を覚えていることも，随分実際にはあるのではないかと思います。 私は，観光は交流と学習だと思いますので，それは自然や歴史や文化，景観と交流するのですけども，同時にそのプロセスは人と交流しながらすると，あるいは言葉と交流するということもあると思います。そういう一種のサポートとか互換と言ってもいいかもしれませんが，そういうものがないと本物の方もよく分からないということがあるということだと思うので，そこを作れるかどうかが大変重要だということなので，それも意識的に追求しないと，単純に推進体制を作るというだけではちょっとよくわからないということが言われたかと思います。屋島にはたくさんのアクティビティがあるようですので，そういう自然に興っているアクティビティを組織化するということになるのだと思いますが，大きなデザインの中にうまく組織化できたらいいかなということで，その活動はの多くの場合，屋島の魅力や価値とつながっているということじゃないかと思います。 やはり，堅く押さえておかなければならない問題も御指摘いただいて，交通やアクセスの問題も重要ではないかと思うので，そこはきっちりしておかないと，せっかくいいデザインができてもそこが崩れてしまうと上手く動かないということが起こると思います。 たくさんの屋島への思いを私は感じました。それをうまく集めるにはどうするか，集めてデザインするにはどうするか，市役所だけでいいのかは分からない，この会議も重要な役割かもしれない，それを継続的にどう進行管理するかということが，最終的には一番重要な問題ではなかろうかと思いました。 次回そういうような，私なりのまとめですけども，提示させていただいて，議論させていただくことにしたいと思います。 （委員） 是非，周辺も考えてください。例えば，大塚国際美術館とか，たくさん観光客が来るわけですから，イサム・ノグチ庭園美術館とかも外国人はすごく行くので，せっかくそこまで来ている人たちを何とか屋島に登らせる仕掛けが必要だと思います。それには現代美術の芸術祭も，一つのシンボルのようにしていくともっと人が集まると思います。 （会長） はい。そういったことも含めてまとめていただきたいと思います。

協議経過および協議結果
質問が出ましたが，瀬戸内国際芸術祭はどうなっていますか。 （事務局） 後ほど，関連事業についての説明する予定である。 (3)　その他 （事務局） １点目，屋島活性化シンポジウムの御案内で，７月 14 日，土曜日，午後２時から午後４時 30 分まで，サンポートホール高松第２小ホールで開催するので，是非，御参加願いたい。 ２点目は，次回，屋島会議の御案内で，正式な案内状については，後日送付させていただくが，９月３日，月曜日午後を予定している。 ３点目，11 月４日の日曜日に行われる「現代源平屋島合戦絵巻」について，担当である観光交流課からパワーポイントを使って説明させていただく。 （事務局） 今日ちょうど，来年の瀬戸内国際芸術祭に関する記者発表会をサンポート高松でやっている。知事や高松市長も参加し，来年の内容をプレゼンテーションしているが，その内容を御紹介する。来年の瀬戸内国際芸術祭の関連イベントとして，屋島を舞台にして源平合戦の絵巻物をやることとしており，11 月４日に行われるイベントのイメージを御紹介したい。 また，先ほど委員の方から御意見のあった瀬戸内国際芸術祭での屋島の活用についても，総合ディレクターである北川フラム氏の方で御検討いただいている。 （資料「現代源平屋島合戦絵巻　事業計画」に沿って説明） （会長） これで本日の議題はすべて終了いたしました。 今日の会議は事務局にまとめていただいて，次回の会議で御議論いただくことになるかと思いますので，よろしくお願いします。 以上で平成 24 年度第１回の会議を終わらせいただきます。どうもありがとうございました。 －議事終了－